【史料15】

六郷川仮橋履歴

一、明治四年十月旧品川県庁エ仮橋架渡出願、同年十一月許可相成タリ「ヲ得」

一、右出願之節ハ鈴木左内ハ八幡塚村〈八幡塚村ヲ里俗路郷ト云〉名主在勤中ナルヲ以テ左内ハ乃チ人民ノ代理トナリ出願セシモノナリ、其際　人民より成功之上ハ費用等可差出トノ証書ヲ取置タリ「モ壱銭モ出金セシモノナク架橋ニ関スル運動費ハ左内壱人ニ於テ負担セリ」

一、明治四年十二月品川県被廃、東京府之管轄トナル、

一、鈴木左内ハ架橋之許可ヲ蒙リシ故、必用之木材等買入工事ニ着手セシニ突然向岸川崎駅ヨリ拒障相発シ、近傍村々ヨリモ交モ巨障申出タリ、「得し」「直ニ」「申出テ亦」「拒障申出苦情続発セリ」

一、向岸川崎駅ニ於テ巨障ヲ発スル因原ハ品川県ニ於テ架橋許可スル前神奈川県庁エ協義経ス許可セシモノナレハ同県庁ニ於テ大ニ品川県之措置ヲ非難シ、府県管轄ノ界境線ナル六郷川エ架橋ヲ許スと一ノ照会ナキハ所謂愛憎ニ出シモノナラント交モ論弁中ナルヲ好機トシ支障ヲナシタルモノト想像ス、「ノ理由ト為スハ許可ノ手続上欠クル処アリ」「ニ先テ」「交渉セス品川県庁カ独断ヲ以テ許可セシハ失体ナリトシ」「応ノ交渉」「云事ニアリ」

一、近傍村々ノ巨障ハ架橋之上ハ玉川脈澎漲之際橋杭エ塵芥押掛リ自然水流阻遮スルヲ以水害アルヲ口実トナシ巨障ヲナス、「ヲ」「出水」

一、明治四年十二月大蔵省中駅逓局より鈴木左内幷川崎駅名主小宮甚兵衛・田中兵左衛門・高橋太郎兵衛御喚徴之上、同局大属真中殿外壱名出席之上六郷川架橋之儀ハ示談可致旨説明有之候得共、左内ニ於テハ架橋之許可ヲ得シ上ハ侘ニ妨碍アリトテ為メニ示談可致理由ナキヲ以其旨弁解セリ、「召喚」「諭」

一、其後チ猶両三回同局へ御喚徴之上、同局長前島密殿御出席之上示談致サヽレハ曩之指令ヲ〈曩之指令トハ許可ノ儀ヲ云〉取消スベキトノ厳談ニヨリ已ヲ得ス数回往復之上遂ニ架橋之儀ハ七分八幡塚村三分川崎駅進退ト示談致スモ川崎駅ニ於テ議了致サス破談相成タリ、示談中往復書類ハ乃チ別紙ニ在ル有リ、「召喚」「回交渉ノ上」

一、明治五年三月ニ至示談ノナラザル為メニ架橋許可取消シ「ノ」旨東京府より下達アリ、「遂ニ」

一、川崎駅及ヒ近傍村落より拒障相発シ、往日之指令取消之達アリシ程之勢故到底能ク架橋之事業ヲ為シ得ヘカラザルモノト自認シ、八幡塚村人民ニ於テハ曩ノ志嚮ヲ更エ一同架橋望願之意ナキヲ左内ニ断ス、故ニ左内一個トナリシモ更意志を換ヘス単身四方ニ奔走シ、一方ニハ苦情ヲ防止シ、一ニハ志嚮ヲ遂ケント欲シ、焦心苦慮実ニ当時ノ艱難能ク筆硯ノ竭ス処ニアラズ、加ルニ之ニ充ルノ費用亦鮮少アラズ為メニ家産ヲ典売シ已ニ一家傾頽ニ至ラントスルモ終ニ志想ヲ換ヘズ意ヲ架橋之一点ニ傾ケ同盟人ヲ募リ、明治六年三月書ヲ東京府ニ呈シ、同年七月仮橋架渡許可相成タリ、「望」「倒尽」

一、明治七年一月工事落成、同月ヨリ五十弐ヶ月半行人より金三厘ツヽ渡橋費トシテ収入スルコトヲ許可相成タリ、

一、明治八年九月橋梁破損之箇所アリテ修営シ、経費トシ六ヶ月間延期相成タリ、
一、明治十一年九月十五日落橋
一、明治十一年中本橋架渡出願
一、渡橋銭収入期限未タ三ヶ月間余有之ヲ以直チニ本橋架設出願
一、明治十二年九月川崎駅ト熟議、同盟之上神奈川県へ出願、
一、明治十二年十一月府庁へ奉呈スル願書却下出願「川崎駅ト同盟出願セシ故、明治十一年出願ニ係ル願書翌十二年却下出願」
［　］治十三年四月府庁より八幡塚村人民ヲ勧誘シ、架橋之儀ヲ出願候様誘導スル趣伝聞スルヲ以テ［　］年［　］仮橋架設之用由詳細縷述［　］シ未タ何等ノ可みナシ、
（後文欠）

【史料16】

差上申一札之事

当駅進退六郷川渡船場江架橋之儀、再応御説諭之趣ヲ以八幡塚村鈴木左内江及示談候得共不行届、東京御府江御懸合被成下候処、同人義発願之趣意ヲ以五分々々ニ而進退相願、且方今日新之際何流中央境界ニ相立相当ニ可有之旨同御府より御申越之趣、猶被　仰聞候得共、右渡船場何流享和度出水ゟ追年川崎駅之方江変瀬いたし、安政六己未年迄田畑合弐拾壱町七反歩余川欠川成等之損地相成全体之地形ヲ失ひ居候ニ付、中央ヲ以境界ニハ難相立、其上左内儀先度之御免許御取消相成候を矢張発願人之意ニ而主張いたし、剰江地所迄横領等可致心底ニ候上ハ、所詮熟儀行届間敷よし也、行届候とも架橋之儀総論不絶様ニ而ハ却而不都合之基ニ而、第一右等之ため架橋遅々便理相妨候も恐入候儀与駅方之ものとも発明仕、架橋ハ悉皆左内江為相任可申、乍去将来万一出水等ニ而右橋損傷渡船相成候歟、又ハ此上之模様ニ寄渡船場盛候ハヽ、復従前ニ渡船ハ都而同駅進退与取極置申度旨申上候ニ付、其段大蔵御省江火仰立被成下候処、六郷川橋懸之儀ハ八幡塚村鈴木左内江為相任出水幷破橋之節、渡船之儀ハ川崎駅において進退いたし度与之儀ハ御聞届被成候間、不取締無之様可致旨、同御省差図之趣、被　仰渡承知奉畏候、御請証文差上申候処、如件、

当御管下
東海道川崎宿
役人惣代
副戸長　高橋太郎兵衛㊞
戸長　田中笑左衛門㊞

明治五壬申年六月七日

神奈川県御役所

【史料17】

（表紙）
「　明治五壬申年
仮橋入費高上り取揚見積帳
九月　鈴木左内　」

仮橋入費高
一、金弐銭六百四拾八貫九百廿五文

外

金弐百八拾八両也

是ハ出水除杭松長六間末口八寸丸太橋杭毎ニ三本宛打立、橋杭拾九ヶ所分木数五拾七本、但壱本代金五両積、

金弐百八拾五両也

是ハ右出水除杭五拾七本打立人足壱本廿人掛、此人足千百四拾人、壱人ニ付金壱分積、

金四拾五両也

是ハ右出水除杭打立候節足代掛ヶ人足百八拾人、壱人ニ付金壱分積り、

金四拾六両壱分

是ハ渡橋賃取立会所弐間半三間幷下家三間ニ三尺五寸共、壱棟此坪九坪弐合五勺、壱坪代金五両積り、

金九両也

是ハ仮橋用木置場竹矢来長拾弐間横六間入費

金五両也

是ハ仮橋用木揚波止場弐間三間諸色損料幷人足賃

金三拾両也

是ハ仮橋普請中肝煎弐人日数六十日見積、壱人ニ付一日金壱分積、

金百六拾八両也

是ハ従前渡船水主廿四人有之、今般渡橋相成候上者水主相離候ニ付手当として壱人ニ付金七両宛差遣度候分、

金四拾両也

是ハ右同断、水主頭四人有之右同様ニ付壱人ニ付金拾両宛差遣度分、

小以金九百拾三両壱分

合金三千五百六拾弐両永百七拾五文

十二ヶ月取揚凡見積

一、金千弐百四拾壱両永百文

内

金三百三拾六両也

是ハ橋渡賃銭取立人昼夜四人壱人ニ付月給金七両積、但壱ヶ年分、

金三拾両也

是ハ出水之砌芥除人夫壱人ニ付壱ヶ年給金三両、但拾人分、

金六拾両也

是ハ会所入用紙・油・炭其外共一日限拾匁積り、但壱ヶ年分、

小以金四百弐拾六両也

差引残金八百拾五両永百文

右者六郷川仮橋掛渡諸入費掛高金三千五百六拾弐両永百七拾五文ニ而出来積り、右渡橋賃銭十二ヶ月揚高之内諸入費差引残金八百拾五両永百文凡五拾弐ヶ月半相立候ハ、取掛立払相成候間、此段凡見込以書取奉申上候、以上、

明治五壬申年九月

旧三区

八幡塚村

鈴木左内

【史料18】

（表紙）

「　明治五壬申年

当今通行之者賃銭付取揚高凡見積

九月　　鈴木左内　」

仮橋渡賃凡見積

一日平均取揚

一、人員五百人　　但壱人銭三十文

此賃銭拾五貫文

右同断

一、人力車五拾文　　但壱挺銭百文

此賃銭五貫文

右同断

一、馬車五挺　　但壱挺銭六百廿五文

此賃銭三貫百廿五文

右同断

一、馬拾五疋　　但壱疋銭百文

此賃銭壱貫五百文

小以銭弐拾四貫六百廿五文

外

夜分凡見積平均

銭九貫八百五拾文

合銭三拾四貫四百七拾五文

右割合ニ而

壱ヶ月取揚

一、金百三両壱分永百七拾五文

壱ヶ年取揚

一、金千弐百四拾壱両永百文

右者当今通行賃銭付凡見積取揚高書面之通御座候、以上、

壬申九月　　旧三区

八幡塚村　　郷村御掛

御役所　　鈴木左内

【史料20】

第四百十六号

東海道六郷渡船場道路変換之儀ニ付伺

東京府管下東海道六郷渡渡船場自費ヲ以架橋消費トシテ年限中従前渡船賃ニ倣ヒ橋銭取立之儀先般聞届置候処、右渡船場道路屈曲往来不便ニ付、別紙図面之通り凡六十間程河上江架渡度旨伺出之趣一層便利ニ相見へ、且新道敷地之為メ貢租増減等無之ニ付、聞届可申存候、仍テ別紙相添此段相伺候也、

明治六年十月五日

大蔵省事務総裁

参議大隈重信

太政大臣三条実美殿

伺之通

明治六年十月十四日

」

当府管下荏原郡八幡塚村農鈴木左内外二人、東海道六郷川渡舟場江仮橋架渡方並消費之為五十二ヶ月半之間橋銭取立之儀御指令相成候処、川崎駅渡舟場之方不都合之地形ニ付、同宿往還江見通シ架橋取計度旨申立候間、官員出張現場之景況及見分候処、右渡舟場之像慶長年間者橋梁有

之、貞保（ママ）元年大洪水之砌落橋、其後渡船相成候趣ニ而、架橋中者現今之屈曲も無之哉ニ相見、一体多摩川之水勢僅之場所ニテ流之強弱有之星霜推移ニ随ひ川筋変瀬随テ程路之姿も相変、当今渡舟場之儀者至而浅瀬治水舟寄之適地ヨリ致渡舟来候様ニ被存、たとへ川崎駅上り場僅之屈曲有之地形ニ而往還不都合無之所、今般架橋取計候上者、旁以僅之場所ニも候間、道路直線いたし候方実地ニ採形態宜、諸車・人馬通行者勿論運輸等之弁理も一層相増、其上八幡塚村地内往還聊長途ニ至り候ニ付、農間稼商之窮民潤助筋ニも相成、尤上流六十三間余之場所者川幅凡四間も狭短橋罷成候得共、渡舟場与違ひ水行者強深底ニ有之、保橋無覚束見据候間、其辺相糺候処、木材其外諸色悉吟味水害無之様、精々手厚ニ造営可致由ヲ以従前目論見入費金高減限省不相成段申立、且振替道敷地儀者八幡塚村堤外見取畑ニ而貢租上納之場所ニて候得共、従前道路ニ換御収納筋引方等不相願候趣ニ付、地元川崎駅故障有無神奈川県江及問合候処、差支無之旨報知有之旁願之通模様替仮橋架渡方取計候様致度別紙絵図面相添此段相伺候也、

明治六年九月　　東京府知事大久保一翁

大蔵省事務総裁

参議大隈重信殿

（付箋）

慶長後貞保ノ年号無之貞享カ　正保ナラン

寛保ノ書換ナルヘシ

（絵図面省略）